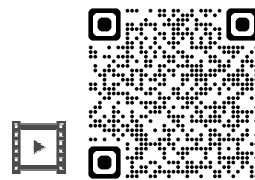


CAGED システムの攻略

アコギ練習帳 P001



目的

5つの基本フォーム(CAGED)を使いこなせるようになるにつれて、欲しい響きのコードを独自に工夫するだけではなく、アドリブのフレーズを導き出したり、歌の合間に“合いの手”を入れるフィル・イン(おかず・オブリガート)を考えたり、ベース・ラインを作ったりできるようになっていきます。ここでは、その段階に至る入口として「コードトーン・エクササイズ」を紹介します。

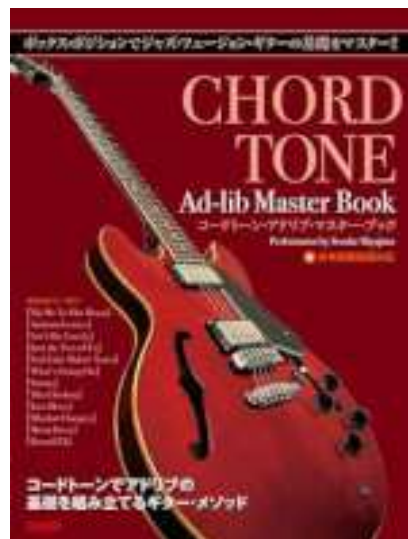
POINT

- コードトーン・エクササイズで指板の音の配置を覚えよう
- スケール練習に移る前段階としての基礎固めに

5つの基本フォーム(CAGED)を理論的に理解した後は、その活用法を身に着けていく練習を始めることになります。とはいっても5つの基本フォーム(CAGED)の指板上の配置を覚えるには地道な練習が必要ですし、それなりに時間もかかります。

せっかくその覚悟を決めて取り組み始めたのに、上達を実感できないエクササイズを紹介する教則本ばかりで途方に暮れてしまった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。かくいう私もその一人でした。

そこに活路を見い出してくれた教則本が宮嶋洋輔さんの『コードトーン・アドリブ・マスター・ブック』です。そこに紹介されていた“ボックス・ポジション”という発想でコードトーン・エクササイズを見直してみたら、ギターの指板上に音の配置が見えてくるようになったのです。

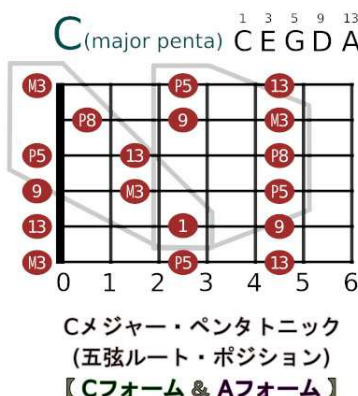
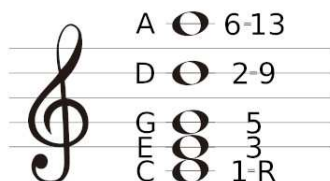


Comment

【 ペンタトニックの前段階としてのコードトーン・エクササイズ 】

『コードトーン・アドリブ・マスター・ブック』に書かれていたのは、アドリブのフレーズを導き出したり、歌の合間に合いの手を入れるフィル・インを考えたり、ベース・ラインを作ったりするには、二つのアプローチがあるということでした。

五和音(ペンタトニック)



一つはよく知られている五和音(ペンタトニック)を活用してフレーズを組み立てるアプローチ。もう一つは、和音のコードトーン(四和音：テトラッド)を基盤にしてテンション・ノートや経過音を加えることでフレーズを組み立てていくアプローチです。

四和音(テトラッド)

B 7
E 5
G 3
C 1-R

CM7 1 3 5 7 C E G B

0 1 2 3 4 5 6

Cメジャー・コードトーン
(五弦ルート・ポジション)
【Cフォーム & Aフォーム】

コードトーンの配置は四和音の型(フォーム)ですから、五音(ペンタ)からなるペンタトニックのフォームよりも一音少なく、コードトーン自体が和音の構成音でもあることから、とりあえずコードトーンのアルペジオ(分散和音)を弾いておけば、アドリブやフィル・インやベース・ラインの音がコードから外れることはありません。やってみると、たしかに音のコントロールがペンタよりも容易なのです。

したがって、はじめから五音のペンタトニックを活用しようとするよりも、まずはコードトーン・エクササイズで指板上の四和音のポジションと活用法を覚え、そこに音を足すという発想で段階的にペンタトニックの運用に慣れていく方が、はるかに効率的だったのです。

ペンタの近道

CM7 1 3 5 7 C E G B

0 1 2 3 4 5 6

Cメジャー・コードトーン
(五弦ルート・ポジション)
【Cフォーム & Aフォーム】

→

C(major penta) 1 3 5 9 13 C E G D A

0 1 2 3 4 5 6

Cメジャー・ペンタトニック
(五弦ルート・ポジション)
【Cフォーム & Aフォーム】

またコードトーンのポジションは、三和音(トライアド)で構成される5つの基本フォーム(CAGED)を包含する配置になりますので、コードトーン・エクササイズを実践することがそのまま5つの基本フォーム(CAGED)を攻略することにも繋がります。

CM7 1 3 5 7 C E G B

0 1 2 3 4 5 6

Cメジャー・コードトーン
(五弦ルート・ポジション)
【Cフォーム & Aフォーム】

→

三和音(トライアド)

G 5
E 3
C 1-R

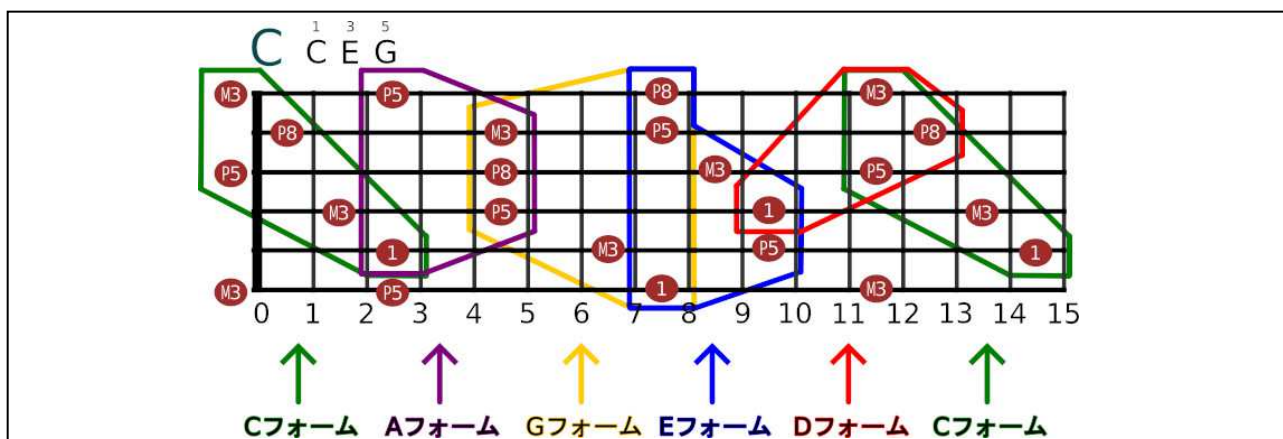
C 1 3 5 C E G

0 1 2 3 4 5 6

Cメジャー・トライアド
(五弦ルート・ポジション)
【Cフォーム & Aフォーム】

コードトーン・エクササイズはギターの指板と恋人になるための近道だったのです。

5つの基本フォーム(CAGED)

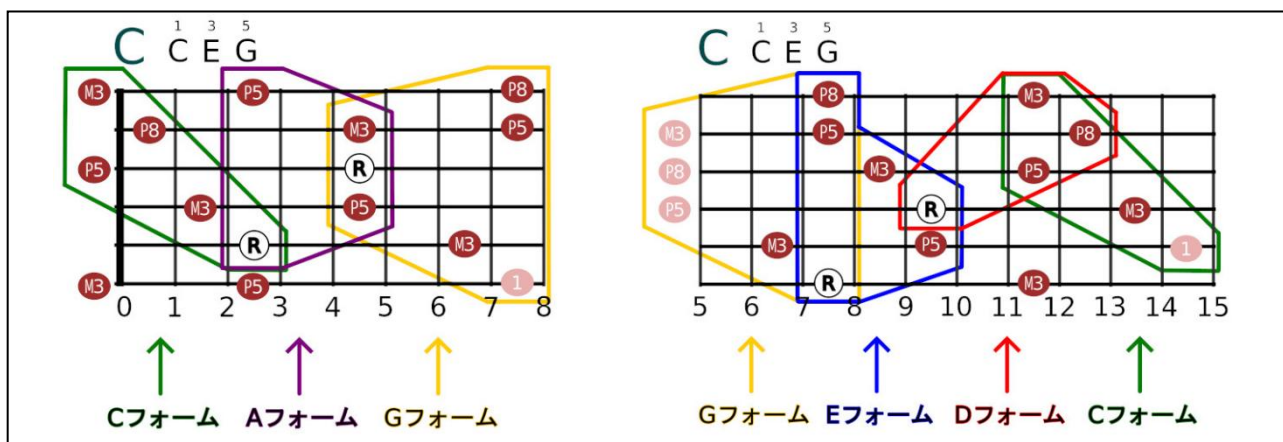


Comment

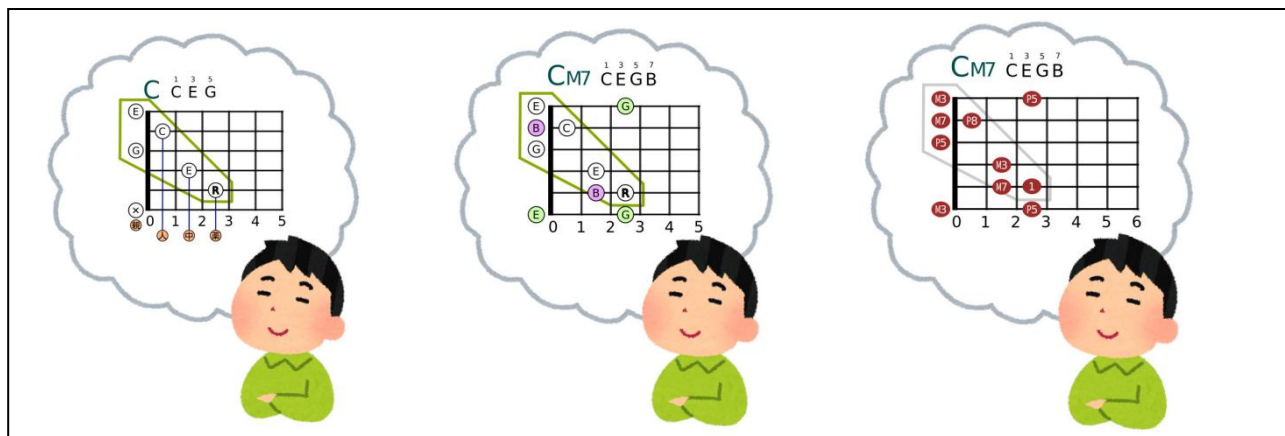
【コードトーン・エクササイズのコツ】

Cメジャー・コードの5つの基本フォーム(CAGED)をギターの指板全体に並べると、5弦3フレットと6弦8フレットのルート音を中心に二つのブロックが見えてきます。下図のような5弦・3弦ルートのブロックと6弦・4弦ルートのブロックです。

5弦・3弦ルートと6弦・4弦ルートのポジション



コードトーン・エクササイズとは、この二つのブロック内の1度(root)・3度(3rd)・5度(5th)・7度(7th)の四和音を1オクターブずつ弾いていくアルペジオ(分散和音)のトレーニングです。



コードトーン・エクササイズのコツは、5つの基本フォーム(CAGED)…すなわち三和音(トライアド)のコード・フォームを指板上に想起すること。そのトライアドのコード・フォームを骨組みとして、四和音からなるコードトーンの音を肉付けし、それぞれの音の配置と度数を合わせて覚えていきます。

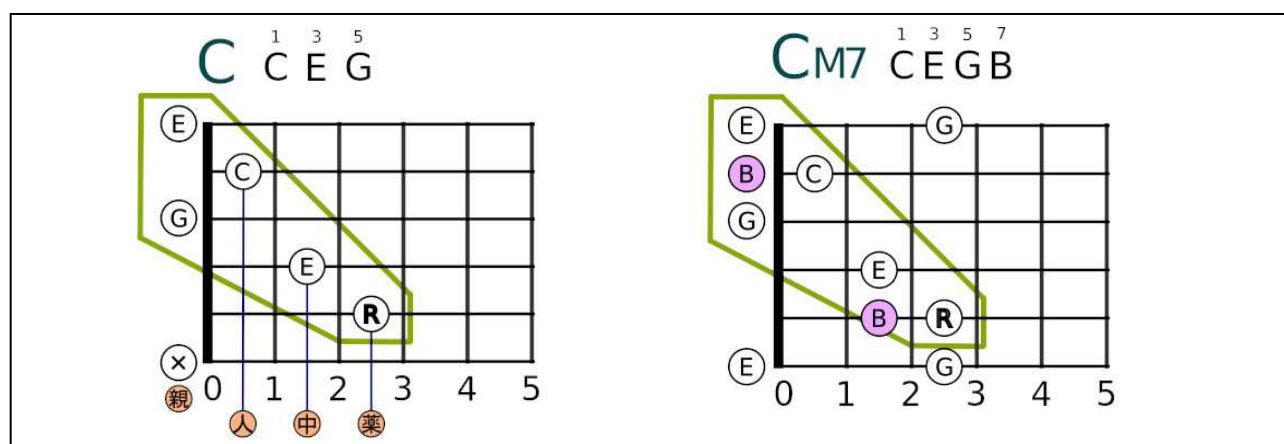
骨組みとなるトライアドのコード・フォームが常に指板上に見えている状態になれば、5つの基本フォーム(CAGED)の型がランドマークのような目印の役割を果たすようになるため、指板上で迷子になることがなくなるのです。



【 C型 CM7 のコードトーン・エクササイズ 】

C型CM7のコードトーン・エクササイズをやってみましょう。5つの基本フォーム(CAGED)のC型Cの周辺にCM7のコードトーンを抽出すると下図・右のような形になります。

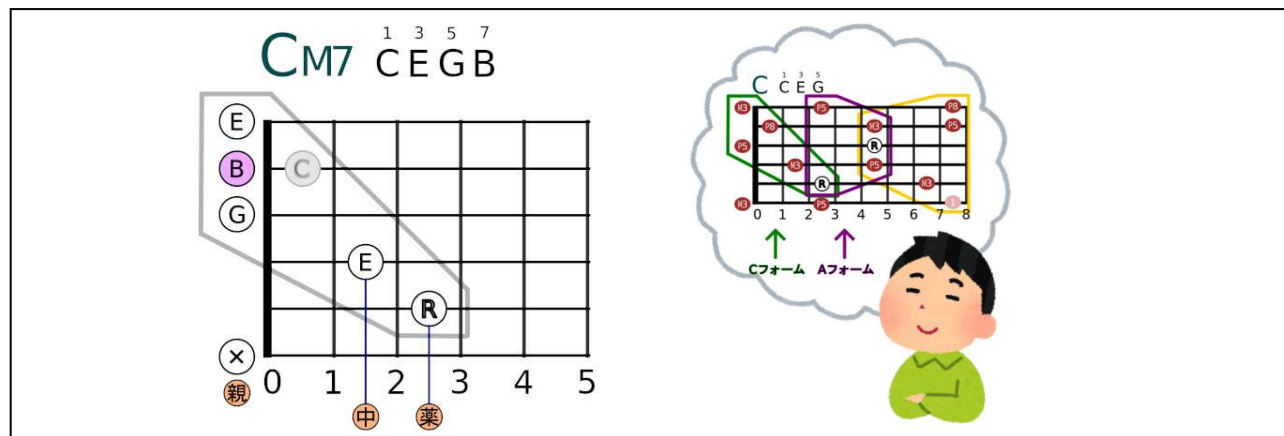
■ C型CとCM7のコードトーン



ここから1度(root)のC・3度(3rd)のE・5度(5th)のG・7度(7th)のBのアルペジオ(分散和音)を弾いていくことになるのですが、まず最初にCM7のコード・フォームを鳴らしてから単音を弾いていくのが賢いやり方です。というのはコード・フォームをイメージできるとコードトーンの音の配置が指板上に見えやすくなるからです。

またCM7のコード・フォームは下図・左のようなものですが、こうしたコード・フォームは三和音(トライアド)から構成される5つの基本フォーム(CAGED)の配置を思い浮かべながら弾くようにすると、覚えやすくなるだけでなく応用も利きます。それは5つの基本フォームがインデックスの役割を果たしてくれるからです。

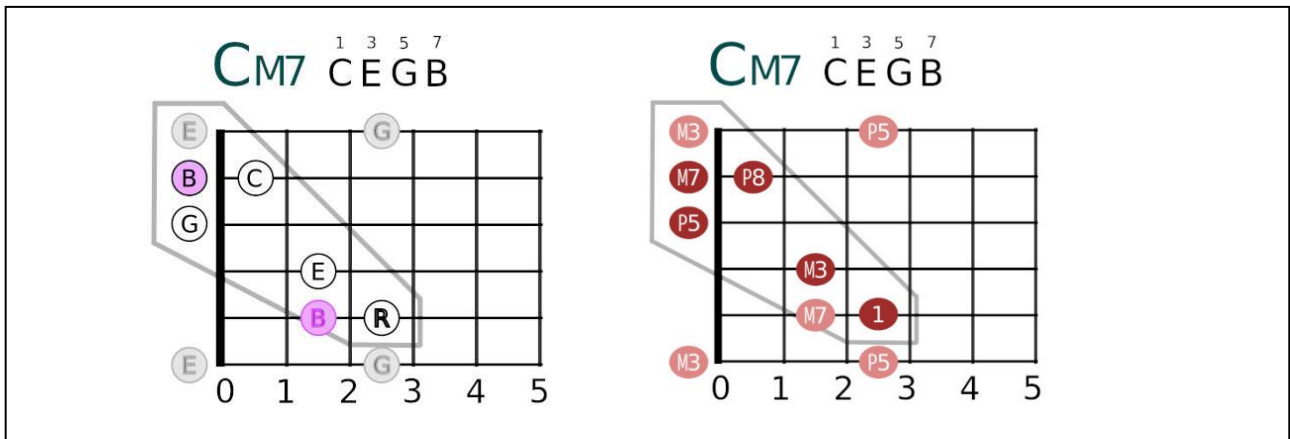
■ CM7のコード・フォームと5つの基本フォーム(CAGED)の配置のイメージ



1度・3度・5度・7度の音をアルペジオ(分散和音)で弾いていくにあたっては音名と度数を声に出

して歌いながら弾くと効果的です。

■ C 型 CM7 のコードトーンの音の配置および度数



このやり方は音名と度数を意識化するための工夫なので、音名と度数が頭の中で一致してくるようになれば、もちろんその必要はなくなります。とはいえ、この工夫をないがしろにしたままエクササイズを続けた場合、カラダで運指だけを覚えて、ギターの指板上の音名や度数がまったく見えてこないという事態になりかねません。ギターの指板上の音名や度数を意識化するためには「声に出して歌いながら弾く」という習慣をつけることが最も望ましいのです。

■ CM7 のコードトーン・エクササイズ

Track_P001

CM7 4/4
ド ミ ソ ティ ド ティ ソ ミ ひ み い な や な い み
薬 中 人 中 薬 中 人 中

コードトーン・エクササイズを一通りやり終えるには半年から一年くらいかかるでしょう。しかしその頃には、長い坂道をのぼりきった後のように、その先に様々な景色が開けてきます。どのような世界が広がるのかを簡単に記しておきましょう。



【コードトーン・エクササイズのその先】

まずはアドリブ・マスターの世界です。コードトーン・エクササイズを一通りやり終える頃には、ギターの指板上に音の配置と度数が見えてきます。そこからさらにスケールとその活用法を学んでいくことで、耳に入ってくるギター・フレーズがどのように組み立てられているのかを分析できるようになってくでしょう。そうならばドラマティックでスピード感のあるギター・フレーズを自分で考えて作ることも可能になってくるわけです。

参考までに、私・工藤うらがアドリブ・マスターの世界を旅するときのガイドとして活用した本を掲載しておきます。

アドリブ・マスターになるための参考書籍



また歌の合間やコード・チェンジのつなぎに気の利いた“合いの手”を入れるフィル・イン・マスターの世界も広がっています。コードトーン・エクササイズを通して5つの基本フォーム(CAGED)を自分のモノにしたら、コード・フォームからフレーズを生み出すフィル・インの技法を学んでいくとさらに楽しみが広がると思います。

フィル・イン・マスターになるための参考書籍



それからベース・マスターの世界もあります。単にコードのルート音を鳴らすだけではなく、適切なベース・ラインを選べるようになると、コード・チェンジを滑らかに演出したり、ハーモニーに広がりを持たせてメロディを引き立たせたりと、ギター・アレンジの引き出しがどんどん増えていくことでしょう。

ベース・マスターになるための参考書籍

